

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290100252		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム千葉末広の家 (2階)		
所在地	千葉県千葉市中央区末広4丁目23-3		
自己評価作成日	平成26年7月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成26年8月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方のペースにあわせて日々の生活をおくれるようにしていきたい
-----------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者が思う生活の提供」をホームの目標に掲げ、利用者のやりたい事や得意な事に取り組める環境を構築し、利用者が思う生活の提供を目指している。また、法人本部で週に一度実施される朝礼の議事録がホームにも配信され、朝礼の議事内容の確認と共に、議事録内に記載している法人理念についても確認している。職員の育成では、法人独自の研修システムを毎月ホーム内で実施し、職員の知識や技術の向上に努めている。今後に向けては、地域との交流の拡大や、外部で開催される研修に職員を派遣する事も目指しており、職員のスキル向上及び地域に根ざしたホーム運営に前向きに取り組む姿勢が確認できた。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	政本グループの理念・運営目標に添うようにサービスを提供している。朝礼により職員が共有するようにしている。	法人本部で週に一度実施される朝礼の議事録がホームにも配信され、朝礼の議事内容の確認と共に、議事録内に記載されている法人理念についても確認している。ホームとしても「利用者が思う生活の提供」を目標に日々支援にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外出時に地域の方々との交流するようにしている	地域とのつながりでは、ホーム周辺の散歩に出かけた際に、近隣の方とあいさつを交わし交流が図れるように努めている。具体的な交流に関しては、今後の検討課題としている。	ホームでは今後、地域のイベントへの参加を通じ、地域交流拡大を検討しており、今後地域との交流がより充実していく事に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者との散歩や外出時に地域の方々との交流を図るようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ行われていない。会議を開き良いサービスの向上を目指したい	運営推進会議に関しては、現状未実施の状態であり、今後定期的な開催に向け準備を進めている。	運営推進会議について現状未実施である事から、定期的な実施を図りサービス向上につながるよう取り組まれることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	訪問を定期的に行ってもらい信頼関係を築くように努めている	市の担当課との連携に関しては、必要書類の提出を求められた際には、直接担当課に出向き、現状報告についても行っている。また、生活保護者の受け入れに関しては区の担当課と連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行い職員の理解を深めている。	ユニット入口のドアについては、安全面に配慮するために施錠しているが、外出する際には開錠し、生活に支障が無いように配慮している。また、ホーム内において「身体拘束廃止」をテーマとした研修も実施予定としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を行い虐待に対する知識向上に努めている		

グループホーム千葉末広の家(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解がまだ不十分であり活用できていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書と契約書を説明し、利用者・ご家族に不安や疑問を残さないようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族の意見や要望をきくようにしている。また意見箱を設置して意見を聞くようにしている	家族からの意見や要望等に関しては、面会時に直接確認し、日々の支援に反映する等家族の意見を踏まえ日々の支援に繋げている。また、玄関先に意見箱を設置し、いつでも意見や要望を表出できるように取り組んでいる。	家族からの意見や要望等に関しては、面会時に直接伺うようにしているが、今後に向けては、意見や要望等を記録に残し、職員間で共有できる仕組み作りにも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を開き職員の意見や提案を取り入れるようにしている	職員全体での職員会議を毎月開催し、業務の見直しや支援方針について職員から意見を挙げてもらい、日々の業務に反映できるように取り組んでいる。また必要に応じて館長と個人面談を実施し、職員の意見や要望等を受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を定期的に見直し、職員が働きやすい職場になるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を行い職員の技術・知識の向上を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し交流する機会を設けている。外部の研修にも参加し交流を図っていきたい		

グループホーム千葉末広の家(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない環境で安心して過ごしてもらえるように本人の気持ちを尊重するようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時などご家族から要望等を聞き、良い関係が築けるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報提供を基に必要としている支援を行うようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など出来ることは参加していただいている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と相談しながら利用者の支援を考えていくようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が施設に入所したことを手紙等で知らせることもある	これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係の継続に向け、交友関係が継続できるように利用者が友人に手紙を投函したり、友人の来訪を受け入れる等、これまでの関係性の継続に配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活のため生活習慣・価値観の違いにより意見がぶつかることもあるが、解決し、後まで心にわだかまりが残らないように努力している		

グループホーム千葉末広の家(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も利用者やご家族からの相談は受け入れるようにしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のひとりひとりの希望を聞き、思いに応えられるように努力している	利用者の思いや意向に関しては、日常会話からの聞き取りのほか、ケアプラン作成時のアセスメントにおいて、利用者の現状や課題を収集し、利用者の意向をケアプランに反映し、意向に沿った支援が図れるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴や情報提供書をもとに把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在の状態や変化を判断できるように利用者に関わりを持つようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の意向を聞き、職員、ケアマネジャーと話し合い介護計画を作成している	アセスメントにおいて利用者の現状や課題を抽出し、担当者会議において職員の意見を収集し、総合的な意見を踏まえケアプランを作成している。ケアプランに掲げた目標は定期的にモニタリングを実施し、達成状況を確認している。	ケアプランで掲げる目標期間が認定の有効期限を超えているケースやケアプランの同意日の抜けも確認出来た事から、細部の確認も今後必要であろう。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、申し送りノートを活用し、介護計画の見直しにいかしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対して臨機応変に対応できるように努めている		

グループホーム千葉末広の家(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を行いグループホームの理解を深めてもらえるようにしていきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携を図り、利用者やご家族が不安なく過ごせるようにしている	ホーム提携先のクリニックの往診や週に一度訪問看護を受け入れており、必要時に必要な医療が受けられる体制としている。また、精神科等他科の受診についても家族と連携し対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師、看護師に利用者の変化を報告・相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者との面会時などに病院関係者との情報交換や相談をするようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者やご家族の希望をかなえられるように終末期に向けた取り組みも今後考えていきたい	重度化した場合や終末期のあり方については、利用契約の際に「医療連携体制加算についての同意書」を交わし、看取りに関する指針や重度化した場合における対応について説明している。利用中重度化が進む際には、主治医、家族と今後の方針を検討することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練の研修への参加もしていきたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを整備し、地域との連携を図っていきたい	火災を想定した避難訓練を実施し、避難方法や通報手順を確認している。また、ホーム周辺の水害状況についてもハザードマップで確認している。備蓄品に関しても水やレトルト食品などを完備している。	今後に向けては、災害時における地域の協力体制についてどのように構築していくか、運営推進会議等において協力関係を確認する等の取り組みに期待したい。

グループホーム千葉末広の家(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人にあわせた声掛け、対応を心掛けている	利用者に対して不適切な対応にならないように、接遇をテーマにした勉強会を実施している。職員一人ひとりが利用者への声かけ及び接し方について日々注意を払っており日々丁寧な対応ができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人が決められるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースにあわせて支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや着たい服の希望をきいたりしておしゃれができるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片づけなどを利用者と協力しながら行っている	食事の準備や後片付けにおいてはテーブル拭きや配膳など利用者の状態を考慮して、一緒に取り組んでいる。食事を楽しむ工夫では、行事食の提供やファミリーレストランへの外食等を通して楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を観察し必要とする量を確保するようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の口腔ケアを行い清潔保持に努めている		

グループホーム千葉末広の家(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のタイミングを見計らいトイレ誘導を行う等の支援をしている	利用者個々の排泄状況は「排泄表」に記録し職員間で共有している。日中に関しては、定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにて確認を行い、運動や水分補給で自然排便できるようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴を実施している	入浴に関しては週に3回入浴できるように支援している。入浴中は職員が介助につき、利用者個々のペースや体調を配慮し、心身共にリラックスできる環境を作り、ゆっくりと安全に入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々のペースで休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬局と連絡・相談をしながら、職員間で情報を共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや洗濯ものたたみ、裁縫や野菜作りなど役割りや楽しみ事を支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩はほぼ毎日行っている	天候の良い日には、ホーム周辺の散歩の出かける等、戸外に出かけられるように支援している。また外出行事としてファミリーレストランへ外出に出かけたり、ショッピングセンターへの外出など、戸外に出かけられるように支援している。	



グループホーム千葉末広の家(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行っているが、職員と一緒に買い物に行くときなどは所持したり、使ったりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方もいる。手紙のやりとりも自由に行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾をし、季節感をあじわっていただいている	リビングには季節感が感じられるように装飾を工夫するほか、日差しが強い時にはカーテンで遮る等、利用者に不快が無いように配慮している。廊下や浴室も掃除が行き届いており、衛生面にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーを使用してもらったり、玄関のベンチを利用してもらい居場所の工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は利用者の馴染みのものを持参してもらい、生活しやすいようにしている	本人や家族と相談し、居室内には馴染みの物を持ち込んで頂く等、ご自身の部屋として居心地良く過ごせるように配慮している。居室内の掃除も日々行い、衛生面にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りを建物内部に多く設置し、安全に移動できるように工夫している		